

苫東用地処理先送り

2015年度まで 道の融資長期化へ

北海道が道土地開発公社に先行取得させた苫東開発用地の2次買収用地について、道と国土交通省北海道局が処理を2015年度まで先送りしていたことがわかった。当初は06年度をめどにすべての用地を処理する予定だった。道は、用地保有に伴う金利負担を軽減

するため、01年度から同公社に無利子融資を行っており、保有の長期化で道の支援はさらに延長される。この問題は、11日午後の決算特別委員会で包国嘉介氏（公明党）が質問する。同用地を巡っては、北海道開発庁（現・国交省北海道局）と道が01年1月、国

が公共工事などを活用して06年度をめどに処理すると決めた。しかし、処理は進まず、北海道局と道は昨年2月、確認書を取り交わし、処理期間を「2015年度めど」に延期した。道の融資は、同用地の簿価を抑制するための単年度貸し付けで、今年度の貸付

1/11 読売(夕)

額は約118億円。処理期間の延期で、本来なら他の施策に使える予算が、公社への融資に引き続き使われることになる。

道開発公社の土地 苫東売却を先送り

国の公共事業遅れて

道は十一日の道議会決算特別委員会で、道土地開発公社が株式会社苫東（苫小牧）への売却を前提に先行取得した苫小牧東部地域の土地約百五十軒について、

て、国の公共事業の遅れで売却が実現せず、当初二〇〇六年としていた処分時期のめどを、九年前先送りしたことを明らかにした。公明党の包国嘉介氏（札幌市東区）への答弁。道開発公社は一九七八年ごろから土地の先行取得を始めたが、企業の進出が予定を大きく下回ったことや苫東自体の資金不足から売却が困難になった。そこで道と旧道開発庁（現・国交省北海道局）は〇六年までに、苫東地域内にある国の公共事業予定地と交換した上で、土地を国に売却する処分策で合意。だが、国の公共事業計画が進まなかったため、道と国交省北海道局は〇七年、土地を処分するめどを一五年とする確認書をあらためて交わした。同公社の土地取得費用は、含み損の拡大を防ぐため道からの無利子融資で賄われており、道の本年度の貸付額は百十八億円だった。

1/12 道新(朝)

道の中小企業近代化資金 滞納、91億円超す

道が中小企業に建築物の建設資金や新設備導入資金を貸し付ける「中小企業近代化資金貸付事業」で、07年度末時点の返済滞納額が91億3400万円に上っていることが11日、分かった。道議会決算特別委員会で報告された。公明党の包国嘉介氏（札幌市東区）の質問に道が答えた。

この事業は、中小企業が複数集まって工業団地やアーケード街、ショッピングセンターなどを作る際の建設資金や、機械などの導入資金を貸し付けるもの。償還期間は20年以内と長く、利率も年1・10%と低く抑えられている。

道経済部によると、貸し付け事業は67年に始まり、80年代までは滞納はほとんどなかった。しかし、90年代初頭のバブル崩壊後に道内景気が長期低迷したほか、高齢化や大型商業施設の郊外進出で中心市街地が衰退し共同経営店舗の経営が難しくなるなど、中小業者が返済に回す資金が不足してきたという。

滞納額の合計は、05年度末82億4500万円、06年度末85億4900万円と年々膨らんでおり、財政状況が厳しい道も今年6月に「債権回収検討チーム」を設置した。道経済部は「効果的な債権管理回収に向けた検討を行い、回収を進めたい」という。【鈴木勝一】

1/12 毎日(朝)